

九州大学 学術研究・産学官連携本部 知的財産グループ 業務概要



九州大学

目次

- ◆ 九州大学 学術研究・産学官連携本部のミッション
- ◆ 九州大学 学術研究・産学官連携本部の体制
- ◆ 知的財産グループのミッションと体制
- ◆ 知的財産グループの主な業務内容
- ◆ 知的財産グループの人材育成
- ◆ 実績

九州大学 学術研究・産学官連携本部のミッション

九州大学は、“産学連携”の目的を「**大学が自らの持つ全てのリソース(経営資源)を駆使し、産業界を中心とする社会にとって有用な価値を実現すること、それによって豊かで快適かつ安全な社会の実現に貢献すること**」と考えています。

すなわち「**大学の創造した知的財産を中心に、人材、施設、ブランド、ネットワークなど大学が持つ全てのリソースを、大学内に閉じこめておくことなく最大限に活用して社会に還元すること**」が、“産学連携”の大きな目的と考えています。

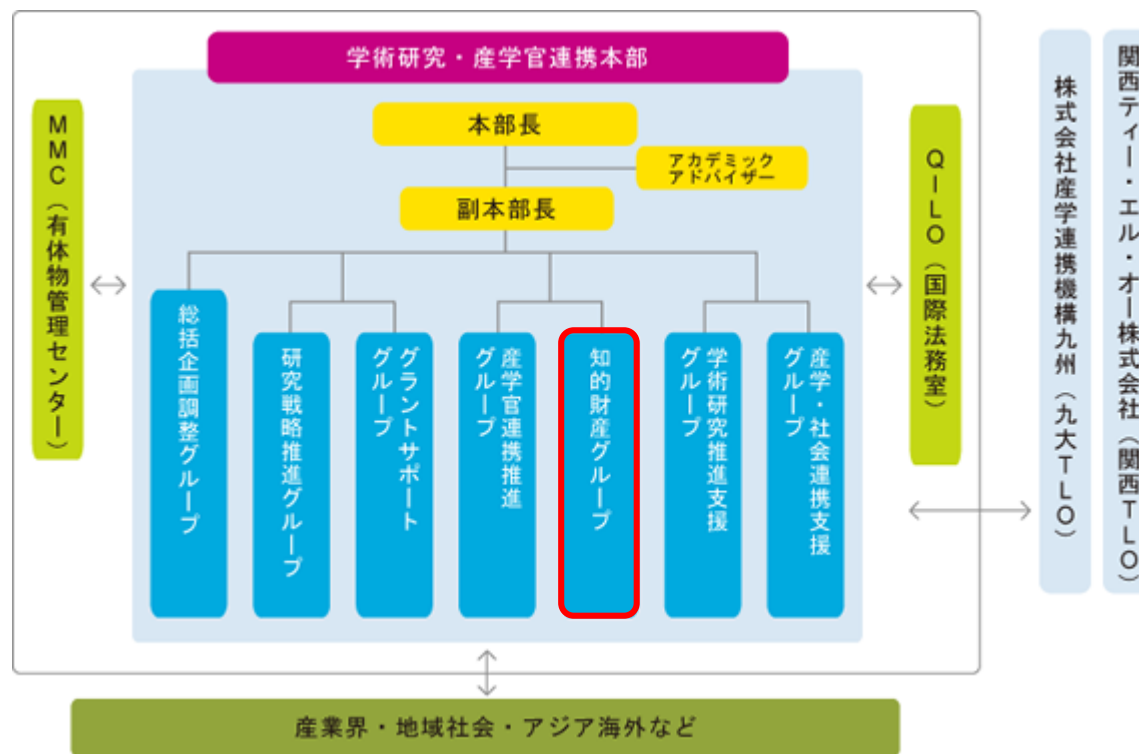
また同時に、“産学連携”を通じて大学が社会の動向やニーズを知り、研究や教育の活性化に役立てる事も大きな目的の一つです。

私たち九州大学 学術研究・産学官連携本部(以下「学産本部」)は、産学官連携の支援組織として、国立大学の社会的な使命に基づき、産学官連携を通じて、教育研究の活性化・高度化へ寄与するとともに、大学の持つ全てのリソースを駆使して有用な価値を創造し、社会の発展に貢献します。

九州大学 学術研究・産学官連携本部の体制

学産本部のミッションを果たすために、7グループを設置し、各グループのミッションに基づいて業務を遂行しています。

<学産本部の組織図>



知的財産グループのミッションと体制

■ 知的財産グループのミッション

知的財産グループは、学内における知的財産に関する意識の向上を図るとともに、大学において創出された研究成果を知的財産として権利化し、それを産業界に技術移転します。

また、研究戦略と知財戦略の融合や、分野を越えた知的財産の融合による付加価値の創出を推進します。特許のみならず、ソフトウェア等も積極的に技術移転しています。

■ 知的財産グループの体制

知的財産グループは、「技術移転チーム」と「知財管理チーム」で構成されています。総勢約10名のグループ員で、日々の業務を遂行しています。

知的財産グループの主な業務内容

■ 技術移転チーム

- ① 発明の評価・権利化・権利維持
- ② 技術移転先の探索とライセンス契約交渉
- ③ 学内の知財啓発と発明の発掘

■ 知財管理チーム

- ① 知的財産とその関連契約の管理
- ② 権利化のアクション日限フォロー
- ③ 知財関連支出等の管理

知的財産グループの主な業務内容

～技術移転チーム～

① 発明の評価・権利化・権利維持

- 研究者から発明届が提出された場合、発明届1件毎に担当者がつきます。
- 各担当者は特許性・市場性・等の観点から発明を評価し、特許権等の権利化の要否を判断します^(※1)。
- 権利化する場合、各担当者は以下の対応をします。
 - (i) 大学の単独出願であれば、三者ミーティング(弁理士・発明者・担当者)を開催し、その後の権利化に必要なアクションをハンドリングします。
 - (ii) 他機関との共同出願であれば、(i)に加えて、共同出願契約締結に向けて共同出願人と共同出願条件(権利持分・費用負担割合・手続窓口・等)の調整をします。
- 権利化した後は、大学が権利を保有し続ける必要があるか否かを判断します^(※1)。

※1 学内で開催する知的財産評価会議で判断の妥当性を審議し、合議のもとで要否を判断します。

知的財産グループの主な業務内容

～技術移転チーム～

② 技術移転先の探索とライセンス契約交渉

- 各担当者は、担当する発明に興味を持ちそうな企業^(※1)を選定してコンタクトします^(※2)。
- 興味を示した企業にライセンス契約条件を提示して交渉します。
- 修正案・再修正案・等を提示しながら交渉を継続し、交渉が成立したらライセンス契約を締結します。
- ライセンス契約によって大学から企業に技術移転がなされ、当該企業が製品やサービスを社会に提供します。その結果、大学発の技術が実用化されます。

※1 上場企業から大学発ベンチャーまで様々な企業が対象となります。

※2 電話・メール・面談などによりコンタクトします。

知的財産グループの主な業務内容

～技術移転チーム～

③ 学内の知財啓発と発明の発掘

- 各担当者は、大学が特許権等を保有する意義を学内の研究者に説明する等して、知的財産に関する学内の啓発活動を行います。
- 各担当者は、日常的に研究室訪問等をして研究者の研究動向を知り、研究成果から発明を発掘します。

知的財産グループの主な業務内容

～知財管理チーム～

① 知的財産とその関連契約の管理

- 各担当者は、大学が保有する知的財産とその関連契約(秘密保持契約・共同出願契約・ライセンス契約・等)に関するデータと書類を管理します。
- データの管理は、オリジナルのデータベースを利用して行います。発明届・特許出願書類・契約書・等に管理番号を付与し、データベースに所定の事項を入力して管理します。
- 知的財産に関する日付データの輸入は、手続きの期限日を算出するベースとなりますので、担当者同士でダブルチェックしながら行います。
- 書類の管理は、所定のファイルに保管し、管理番号に基づいて迅速に取り出せるように配慮して管理します。

知的財産グループの主な業務内容

～知財管理チーム～

② 権利化のアクション日限フォロー

- 各担当者は、技術移転チームが権利化に必要なアクション日限(審査請求期限・PCT出願の各国移行期限・等)を遵守できるように、アクション日限を管理して技術移転チームのフォローを実施します。
- アクション日限の管理は、①で説明したデータベースを利用して行います。

知的財産グループの主な業務内容

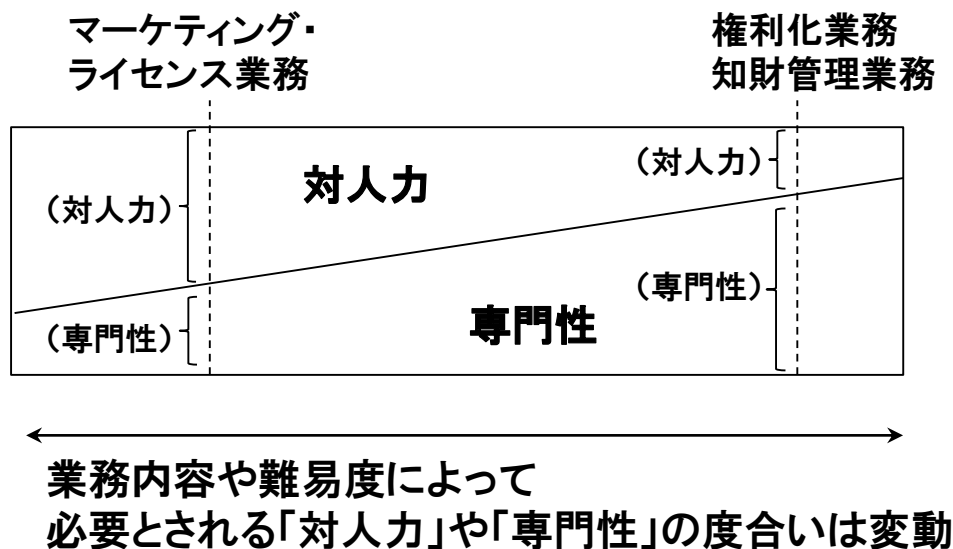
～知財管理チーム～

③ 知財関連支出・収入等の管理

- 年間の知財関連支出が予算内に収まるように、支出の累積額を集計して技術移転チームをフォローをします。
- ライセンス料の請求書発行をフォローし、適切なライセンス収入が得られるようにフォローします。

知的財産グループの人材育成

知的財産グループの業務を遂行するためには、「専門性」と「対人力」をバランスよく高める必要があります。そのために、各担当者へのOJTとグループ内勉強会を並行して行っています。



「対人力」

- ・ 原則としてOJTを通して対人力向上を図る。
- ・ 可能な限り形式知化し、グループ内勉強会でノウハウを共有。

「専門性」

- ・ 各人の自己研鑽とグループ内勉強会を通して専門性向上を図る。

知的財産グループの人材育成

- 知財・契約に関連したグループ内勉強会を定期的を実施し、グループ員のスキル向上を図っています。

<最近のグループ内勉強会の実績>

2013年度

- 知財勉強会(初級編) : 2013年10月～12月
- 知財勉強会(初・中級編) : 2014年 1月～ 3月
 - 1月28日 PCT(主に手続の流れ) 3月11日 特許権侵害
 - 2月12日 PCT(国際調査報告、補正、国内移行手続、等) 3月25日 実施権
 - 2月25日 パリ条約

2014年度

- 共願契約書雛形勉強会 : 2014年 7月

2015年度

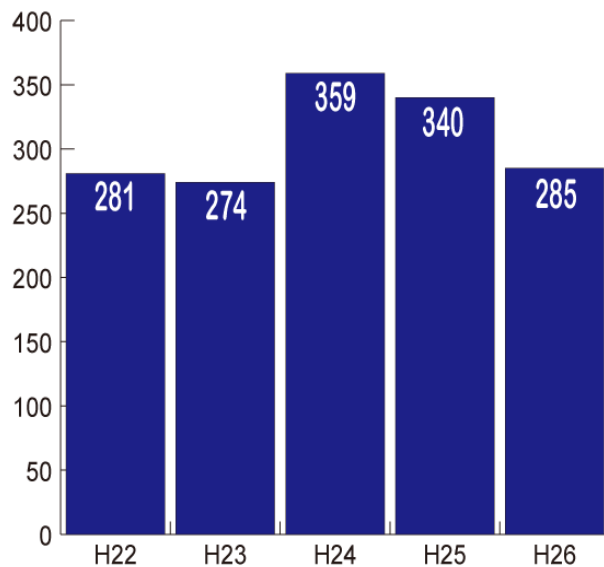
- 共願契約書雛形勉強会 : 2015年5月
- ライセンシー候補企業のサーチ方法 : 2015年7月
- ライセンス対価の設定方法 : 2015年7月

実績 ～発明届～

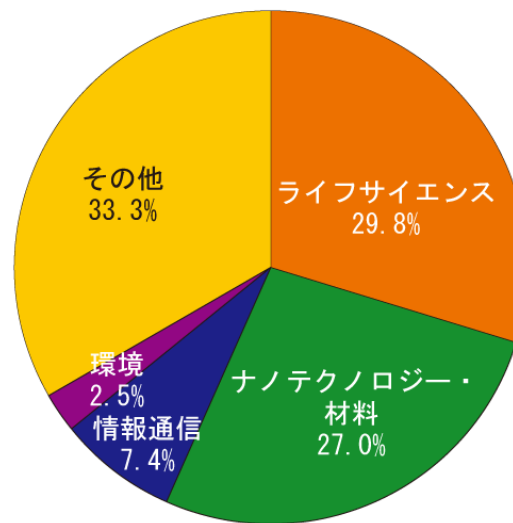
■ 発明届は300件／年

■ 材料・ライフサイエンス系で全体の約6割

● 発明届件数の推移



● 発明届出（分野別）

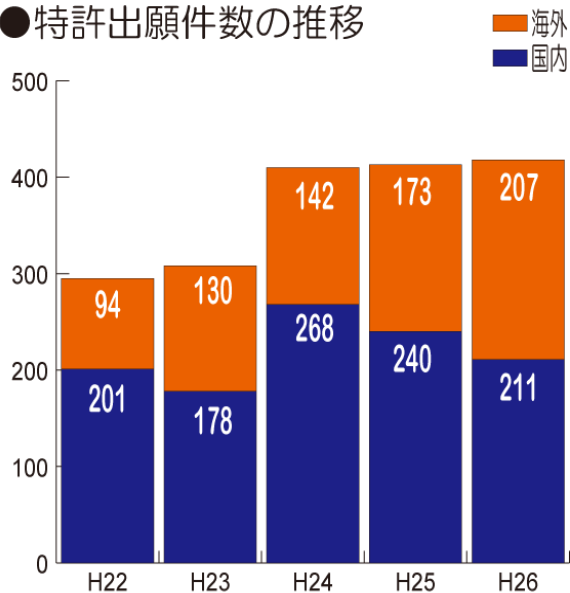


平成26年度実績

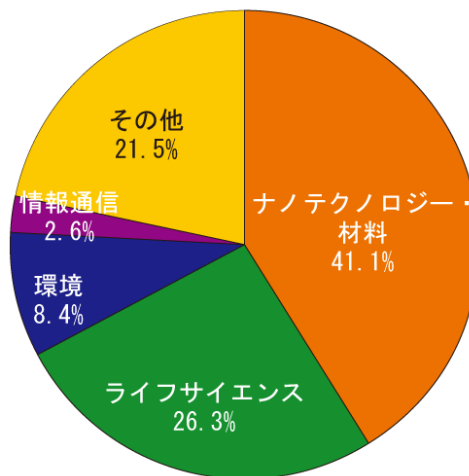
実績 ～特許出願～

- 特許出願のうち約1/4が単独出願
- 材料・ライフサイエンス系で全体の約7割
- 出願の要否、権利維持の要否、等は「知的財産評価会議」で審議
- 企業との共同出願は企業側で費用負担するように交渉

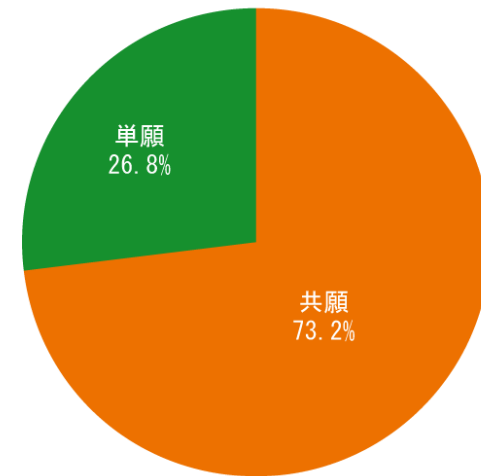
● 特許出願件数の推移



● 出願（分野別）



● 出願（共願・単願）



平成26年度実績

実績 ～ライセンス収入～

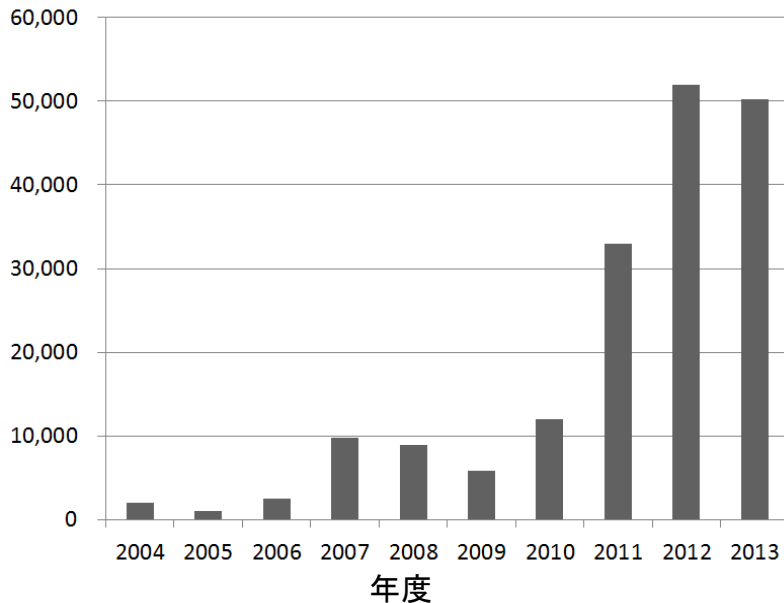
【特許権等実施料収入ランキング】

(文科省「大学等における産学連携等実施状況について」より抜粋)

平成24年度

平成25年度

【特許権等実施料収入の推移】



2011年度以降は、単願の一部の技術移転を
関西TLOに業務委託。

No.	機関名	収入額
1	京都大学	257,186
2	日本大学	220,204
3	東京大学	179,314
4	東北大学	60,807
5	大阪大学	54,888
6	九州大学	51,929
7	神戸大学	48,823
8	北里大学	48,582
9	北海道大学	40,303
10	熊本大学	38,033
11	東京工業大学	32,824
12	金沢大学	32,822
13	関東学院大学	29,500
14	広島大学	28,148
15	東京医科歯科大学	27,097
16	慶應義塾大学	20,061
17	名古屋工業大学	17,198
18	奈良先端科学技術大学院大学	14,882
19	信州大学	13,439
20	筑波大学	12,769
21	富山大学	12,721
22	札幌医科大学	12,259
23	岡山大学	11,833
24	早稲田大学	11,818
25	埼玉医科大学	11,533
26	山梨大学	11,523
27	愛媛大学	10,691
28	名古屋大学	9,697
29	電気通信大学	9,531
30	山口大学	9,095

(単位:千円)

No.	機関名	収入額
1	東京大学	659,854
2	京都大学	412,209
3	大阪大学	117,269
4	日本大学	96,293
5	九州工業大学	77,014
6	九州大学	50,212
7	広島大学	43,793
8	東北大学	42,518
9	東京工業大学	42,471
10	関東学院大学	34,000
11	北里大学	32,767
12	長崎大学	27,575
13	金沢大学	27,225
14	慶應義塾大学	21,039
15	東京医科歯科大学	21,025
16	名古屋大学	18,672
17	北海道大学	18,663
18	札幌医科大学	18,475
19	埼玉医科大学	18,472
20	静岡大学	18,266
21	早稲田大学	17,706
22	神戸大学	17,206
23	千葉大学	17,031
24	大阪府立大学	15,843
25	同志社大学	14,294
26	熊本大学	13,326
27	奈良先端科学技術大学院大学	12,743
28	久留米大学	12,633
29	富山大学	12,388
30	鹿児島大学	12,276

(単位:千円)

知的財産グループの 求人・業務内容に関するお問い合わせ先

**国立大学法人九州大学
学術研究・産学官連携本部 知的財産グループ**

e-mail transfer-recruit@airimaq.kyushu-u.ac.jp